

放送日： 平成 20 年 2 月 3 日

タイトル： 乳癌検診のすすめ

担当者： 医師 辻 宗史

こんにちは。公立甲賀病院、外科の辻と申します。

今日は乳癌検診についてお話しいたします。検診の重要性をお話する前に乳癌について簡単に説明いたします。

乳癌は、乳房の中にある乳腺に発生する悪性の腫瘍です。初期の頃は自覚症状がほとんどありませんが、そのまま放置していると癌は乳腺の外に広がり、やがて全身に広がっていきます。

日本では、食生活の欧米化などによって乳癌が増加しており、日本人女性の 25 人に 1 人がかかるといわれ、女性がかかる癌の第 1 位となっています。日本では毎年約 4 万人が乳癌にかかり、毎年乳癌で亡くなる女性は約 1 万人いて、30 才～64 才の女性の死因の第一位となっています。今後、乳癌は増加傾向に続くと考えられており、1985 年の乳癌罹患率を 1 とすると、2015 年にはその 1.9 倍の方が乳癌にかかると予測されています。

ところで、みなさんは癌にかかれば必ず死ぬと考えてはいませんか？ 乳癌は胃癌や肺癌などと比べると進行がゆっくりしている傾向があり、早期に発見すれば治療率が高い癌です。ごく早期の場合には、ほぼ 95%が治ると言われています。

また、早期であれば乳房温存療法が可能で、治療後も QOL（生活の質）を下げることなく生活できることがわかっています。ですから、早期発見すれば、乳癌は決して怖い病気ではありません。

では、どうすれば乳癌を早期に発見できるのでしょうか。ひとつは自己検診です。

体の表面に近い部分に発生する乳癌は、自分の目と手で発見することができる数少ない癌です。乳癌患者の 8 割以上の方が、自分で異常に気づいて受診しています。月に 1 度は自己検診を行きましょう。普段から自分の乳房に触り慣れていれば、小さな異常にもいち早く気づくことができます。自分で触れて気になる“しこり”がある場合、あるいは気になる症状がある場合は、「もし乳癌だったら」と怖がらずに、早めに乳腺外来の診察を受けましょう。

もう一つは定期健診、すなわちマンモグラフィ併用乳癌検診です。

乳癌検診では一般的に視診・触診とマンモグラフィ検査を行います。マンモグラフィを併用することで、乳癌の発見率は非常に高まります。各自治体で 40 才以上の女性を対象に実施していますが、2 年に 1 度しか受けられませんので、毎年の検診を希望する方や 20 代、30 代の方、検診で精密検査が必要とされた方、乳房に異常を感じる方は、甲賀病院乳腺外来を受診ください。日本乳癌学会の専門医、認定医が視触診、マンモグラフィ検査に加え超音波検査、細胞診検査などを行い、乳癌の早期発見、治療に努めています。昨年度は 26 件の乳癌手術をてがけ、その 60%が乳房温存手術でした。乳腺外来は、毎週月曜日と金曜日の午後 1 時から 3 時まで受付しています。外来には自己検診法のパンフレットも置いてあります。

乳癌に最もかかりやすい 40 代、50 代の女性だけでなく、最近では 60 才以上や 30 代の女性にも乳癌が増加していますので、女性の方はみなさん乳癌検診を受けましょう。